

東日本大震災発生
1年間の記録

海岸公園冒険広場臨時開園へ！

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、海岸公園冒険広場(愛称「ぼうひろ」)は被災し、休園に追い込まれました。しかし、多くの方々からお力添えや励ましをいただき、2011年度に3度の臨時開園を行いました。震災で壊れたところや残ったところを見て、知ってもらいたい。そんな気持ちからのスタートでしたが、無事に臨時開園実施に至ったのは、ぼうひろにとって大きな一歩でした。この「ぼうひろ便り」は、震災発生後1年間にわたる奮闘の記録です。

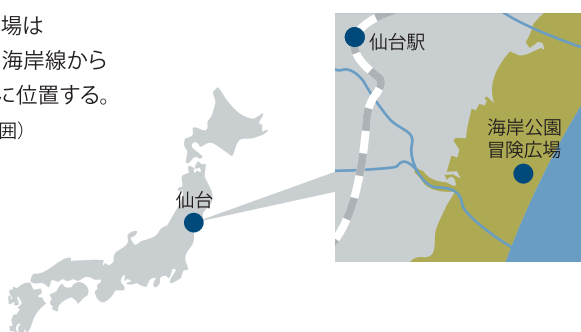
2011年3月18日、仙台市撮影



3.11の 海岸公園冒険広場

3月11日の地震による大津波で、海岸公園冒険広場は大きな被害を受けました。冒険遊び場・大型遊具のある高台部分は奇跡的に残ったものの、それ以外の部分はそう簡単に手をつけられる状態ではなく、当初は再開など、とても考えられる状況ではありませんでした。

海岸公園冒険広場は
仙台市若林区の海岸線から
約300mの場所に位置する。
(黄色：津波浸水範囲)



左上: 震災前のぼうひろ
右上: 被災した公園施設
下: 自衛隊のヘリコプターで
救助される



2011年3月11日の状況

- 14:46 地震発生
- 14:49 大津波警報発令
- 14:53 津波情報伝達システムが放送され、避難開始
- 15:10 来園者の避難が完了した後、近隣の井土集落より住民3名が避難する
- 15:55頃 大津波到来
- 17:10頃 自衛隊のヘリコプターが着地し、救助される(住民3名、犬1匹、猫1匹、職員2名)

被害状況

津波の高さは約7～8m、海側の面の遡上高は約15m。幼児遊具広場・デイキャンプ場・駐車場は浸水し水没。冒険遊び場・大型遊具広場の高台部分の大部分は、この周辺で唯一浸水を免れた。

津波到達時刻で
止まったままの
管理棟ホールの時計



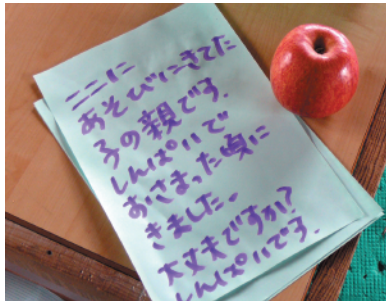
ぼうひろ再開へのいっぽ!

震災後、何度か公園に入り状況確認をしたことや、多くの方々から応援の言葉をかけていただいたことから、今は「残されたもの」としての役割を果たしていくことが必要なのではないかと考えるようになりました。協力を申し出てくださった専門家の方々の力もお借りしながら、「何ができるか」を何度も何度も話し合いました。そして、指定管理者として汚泥やがれきの除去・物品救出と合わせ、津波の痕跡の保存・記録、被災後の環境調査を始めました。

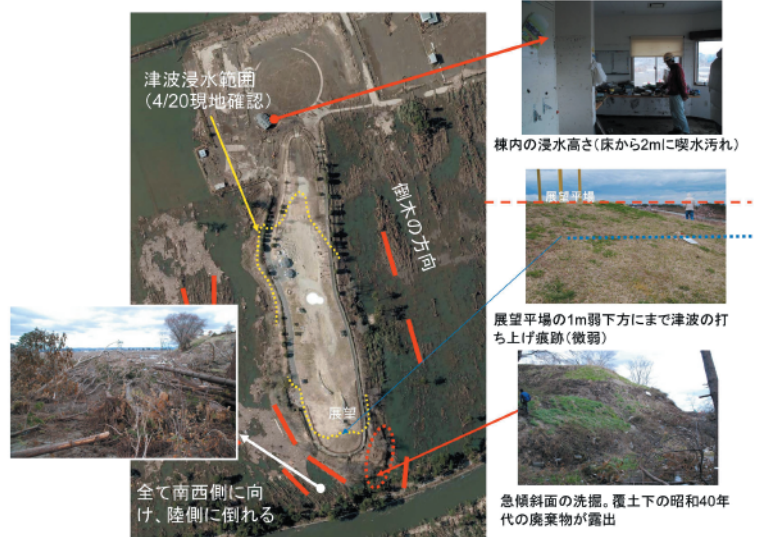
津波で被災した管理棟



リーダーハウス内で
見つけた手紙



ぼうひろ周辺の被災状況 日本応用地質学会・橋本修一氏作成



寄せられたメッセージ

被災後、多くの方々から応援の言葉をいただきました。ありがとうございました。
以下は、ぼうひろブログ(<http://bouhiro.bouken-asobiba-net.com/>)のコメントより抜粋したものです。

(前略)私、臨床心理士でスクールカウンセラーをやっておりますが、子どもの心のケアに最も大切なのはカウンセラーのケアではなく親や友達と一緒に外でのびのびと遊ぶことだと感じています。復旧のためにできることがありましたらお知らせください。(巨理のあおいパパさん)

太白区在住ですが長男が公園遊びを覚えた頃から、何度も何度も遊びに通いました。(中略)長男が転んで顔に傷を作ったり、当時1歳半だった次男が初めてチョークで地面に“落書き”したのもここだったなあ…。また大好きな滑り台やふわふわドームで遊べる日がきますように。(りいさん)

私の娘はとても敏感で臆病で人見知りでした。(中略)子どもが自由に楽しく遊ぶ場所としてだけでなく、私が母としての感動と楽しみを感じる場所としてなくてはならない大切なところ。(中略)どうか、どうか子どもの笑顔をこの場所にもう一度。(まいかママさん)

(前略)泥だらけになって朝から夕方までたっぷり遊んだ思い出は、子どもたちの心の基礎となって大人になるまでずっと生き続けていくと信じています。冒険広場は他の規制だらけの公園では育めないものをたくさん学ぶことができました。親としてもたくさん勉強になりました。(yuさん)

左上: ぼうひろ展望台から仙台市街地を望む
 右上: 子ども大人も工作に夢中
 左下: 染め上がった鯉のぼり
 右下: 草笛や竹工作を楽しむ

3度の臨時開園!



2011年11月と2012年3月に計3回臨時開園を行い、トータルで約850人の来園者を迎えました。ここでは、それぞれの臨時開園で行った内容や当日の状況などを紹介します。



2011年11月20日(日)

この日、海岸公園冒険広場は震災発生後初の臨時開園を行いました。450人余りの来園者でにぎわう園内は、久しぶりに活気を取り戻しました。来園いただいた方の多くが、震災前から頻りにぼうひろを利用しており、久々のぼうひろで思いっきり遊んだという喜びの声が多く聞かれました。その一方、周囲に依然として残る津波被害の甚大さに目を奪われた方や、そのような大きな被害を受けながらも、高台部分が無事だったことに驚く方もいました。



2012年3月18日(日)、25日(日)

2012年3月は2日間臨時開園を行い、約400人の来園者を迎えました。県内各地のほか、関東からもたくさんの方が駆けつけ開催をサポートしてくれました。楽器として鳴らすこともできる大きな遊具、染めて作る鯉のぼり、公園の中で拾った松ぼっくりを飾る工作、園内の生き物の観察、草笛や竹工作。このようなさまざまな遊びで、ボランティアスタッフの方が来園者を迎え、多くの方の気持ちに支えられていることを感じました。



よりよい臨時開園を目指して

ぼうひろは震災で大きく変わってしまいました。被災した周囲の海岸林は、仙台市の復興のため、震災がれきの一次集積所となりました。私たちは臨時開園を開催するにあたって、どのような被害を受けたのかをお伝えするために、園内の各所に被災前の様子が分かる案内板を設置したり、津波の痕跡が残る場所の草を刈り残したりしました。また、園内をスムーズに移動できるよう、進路に沿ってロープを張り来園者を誘導しました。水道も電気も停まっているなかでの開催となったため、仮設トイレを設置するなど、できるだけ不便をなくすように気を配りました。臨時開園当日は、万が一災害が発生した場合の避難計画を事前に立てた上で、開園中も常時情報収集やスタッフ間の情報共有を徹底し、不測の事態に備えました。終了後はアンケートを回収・分析をしてニーズの把握に努めました。

臨時開園では、園内のがれきの撤去や来園者に配布する「粘土だんご」づくりなど、多くのことを全国から集まったボランティアの方々に支えられました。「粘土だんご」とは粘土質の土に野菜の種を入れて丸めたものです。屋外の地面に置いておくと、自らの力で水を集めて発芽します。ささやかな芽吹きですが、それにぼうひろ復活への願いを込めました。

左: 新しい案内板の設置
 右: 粘土質の土を粉状にして、「粘土だんご」を作る



左: 炉のまわりでくつろぐ
 右: 台車で園路をドライブ



被災して遊べない遊具と
子どもたち



今後のぼうひろに望むもの

臨時開園に訪れた方から、公園の早期再開や臨時開園の再度の開催を望む声が寄せられました。また、震災の脅威を伝えるために、被災状況の保存・公開を希望する意見も集まっています。

ぼうひろに寄せられるエール

ぼうひろは今、再開を望む方々からの数多くの応援に支えられています。

左: 寄せられた支援物資
中央: ハワイの子どもたち
からの応援メッセージ
右: 園路に描かれた子ども
からのエール



被災地の環境観察と記録

ぼうひろでは震災前、子どもたちと一緒に園内およびその周辺に生息する生物を観察するプログラムを開催していました。しかし被災によって生態系は激変し、子どもたちと出会った生物の姿も見えなくなりました。このような生態系の変化を分析・記録するため、専門家の協力を得ながら定期的な調査を行っています。



ぼうひろ植樹

いのちをつなぐ森プロジェクト

2011年7月31日には、植樹「いのちをつなぐ森プロジェクト」を行いました。限定的ではありましたが震災後に初めて地域住民の方など300余名の参加者を冒険広場に迎えることができました。



植樹の様子は『朝日新聞』2011年8月11日朝刊、『ナショナルジオグラフィック 日本版』2011年11月号 別冊 特別編集版「再生と生物多様性」に掲載

メディアでの紹介・情報発信

震災後の私たちの活動は、新聞やTVなどの報道機関で取り上げられました。
また、各報告会や学会などで情報の発信をしてきました。

<新聞>

- 『朝日新聞』2011年3月24日朝刊「子どもに遊び場を」
- 『河北新報』2011年4月15日夕刊『津波』次代に伝える場に※1
- 『朝日新聞』2011年8月1日朝刊『海岸に森再び』みんなで植樹
- 『朝日新聞』2011年8月11日朝刊「あそびの達人、元気を伝授」
- 『河北新報』2011年9月14日夕刊「遊具携え子らに解放」※2
- 『河北新報』2011年10月17日朝刊「ぼうひろ"被災知ろう"※3

<Web>

- 「支援の心“つながる”被災地で活動する人たち」
(共同通信、2011年4月9日)
<http://www.47news.jp/47topics/e/205260.php>
- 「支援のかたちへ生放送!サポセンかわら版〜第3回『こども支援』」
(せんだいメディアテーク・仙台市市民活動サポートセンター、2011年8月21日)
<http://recorder311.smt.jp/movie/5003/>

<掲載物>

- 『杜の伝言板ゆるる』2011年6月号(特定非営利活動法人 杜の伝言板ゆるる)
- 『仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと』2011年8月号(仙台市市民活動サポートセンター)
- 『公園緑地』VOL.72 第1号(日本公園緑地協会、2011年8月)
- 『子どもの権利条約ネットワークニュースレター』第105号(2011年9月15日)
- 『ナショナルジオグラフィック日本版』2011年11月号 別冊 特別編集版「再生と生物多様性」(日経ナショナルジオグラフィック社、2011)
- 田代順孝、中瀬勲、林まゆみ、金子忠一、菅博嗣 編著『パークマネジメント』(学芸出版社、2011)
- 日本子どもを守る会 編『子ども白書2011』(草土文化、2011)
- 子どものからだと心・連絡会議、子どものからだと心白書2011編集委員会 編『子どものからだと心白書2011』(ブックハウス・エイチディ、2011)

<報告など>

- 日本造園学会緊急報告会「被災現場からの報告海岸公園冒険広場」(2011年5月21日)
- プレーパークせたがや報告会「被災地での遊び場活動の現状と今後」(2011年6月18日)
- 子ども安全まちづくりパートナーズ「冒険遊び場での被災体験と子ども達への支援」(2011年6月19日)
- ジュニアリーダー上級研修「震災時の状況報告と遊びを通じた子ども達への支援」(2011年7月18日)
- T・M・U都市と住宅を考える会「仙台市若林区『冒険遊び場』での被災経緯と再建への取り組み」(2011年7月30日)
- 日本冒険遊び場づくり協会ミニミニ全国集会「被災地で考える、遊び場づくり」(2011年10月15～16日)

<TV>

- ミヤギテレビ『OH!バンドス』(2011年5月11日) ※4
- 静岡朝日テレビ『とびっきりしずおか県内ニュース』(2011年11月21日)
- NHK『NHKニュース』(2012年3月18日)

一臨時開園に関する報道一

<新聞>

- 『河北新報』2011年11月21日朝刊「冒険広場に歓声再び」※5

<TV>

- ミヤギテレビ『NEWS24』(2011年11月20日)
- 仙台放送『ANNスーパーチャンネル』(2011年11月20日)
- NHK『てれまさむね』(2011年11月22日) ※6
- NHK『ニュースみやぎ845』(2011年11月22日)
- NHK『NHKニュース』※東北6県での放映(2011年11月23日)

<ラジオ>

- エフエム仙台『スマイル宮城〜ホープフロムレディオ〜』(2012年2月25日)



※1



※2



※3



※4



※5



※6

子どもの「あそぶ」を支えるプロジェクト

冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワークは、東日本大震災からの復旧・復興に際し、仙台市およびその周辺被災地域において、子どもがいきいきと思いきり遊べる場づくりに取り組んでいるNPO法人です。2011年度は、仙台市若林区のさまざまな場所出張遊び場活動を展開したほか、県内外での支援活動も行いました。

ぼうひろとつながる遊び場

冒険広場の再開の見込みが立たないなか、他団体が実施する遊び場活動にプレーリーダーを派遣するところから遊び場の取り組みを開始。これまでのつながりを生かしながら、若林区六郷・七郷両地域の5カ所で新たに出張遊び場の活動を行うようになりました。私たちが目指しているのは、子どもの健やかな育ちのために、冒険広場が持っていた役割を担うことと、この震災で必要性が叫ばれるようになった「心のケア」などの役割を担うこと、この2つです。「小学校の校庭の一角」「市民センター・児童館と小学校に挟まれた公園」「一部に仮設住宅の建った公園」「仮設住宅の敷地内」「町内会の公会堂」と週1回活動を続けるなかで、場所も少しずつ定着してきました。また、町内会の集会所で屋内の遊び場の取り組みも始めています。これからも継続して活動していく予定です。

1. 七郷あそび場〔仙台市海岸公園冒険広場サテライト業務〕
2. 六郷あそび場〔赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」〕
3. ニッペリアあそび場〔宮城県新しい公共の場づくりのためのモデル事業(災害復興緊急事業)〕
4. 荒井2号公園あそび場〔宮城県新しい公共の場づくりのためのモデル事業(災害復興緊急事業)〕
5. 上荒井公会堂あそびば「ちびひろ」〔仙台市被災児童やその家族等を支援するための相談・援助事業費補助金〕

- 1: 大勢の子どもでにぎわう
- 2: ハワイからの支援者と一緒に
- 3: 仮設住宅敷地内の遊び場



- 4: 公園の一角で遊び場を展開
- 5: 乳幼児連れの親子を対象に



子どもたちへの支援活動

NPO・NGOなどと連携して、県内被災地の保育園、幼稚園、小学校といった施設への支援活動を行っています。また、県外支援団体による被災した子どもたちのためのキャンプや遊び場づくりへのサポートを現在も継続して行っています。



発行・編集 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク・東洋緑化 共同企業体

〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-8-17 日東ハイツ 202 TEL:022-264-0667 E-mail:asobo@coral.plala.or.jp

初版発行日 2014年6月1日 ※2011～2012年度に発行した「ぼうひろ便り」を再編集したものです。(vol.1初版2011年11月20日 vol.2初版2012年3月1日 vol.3初版2012年4月18日)